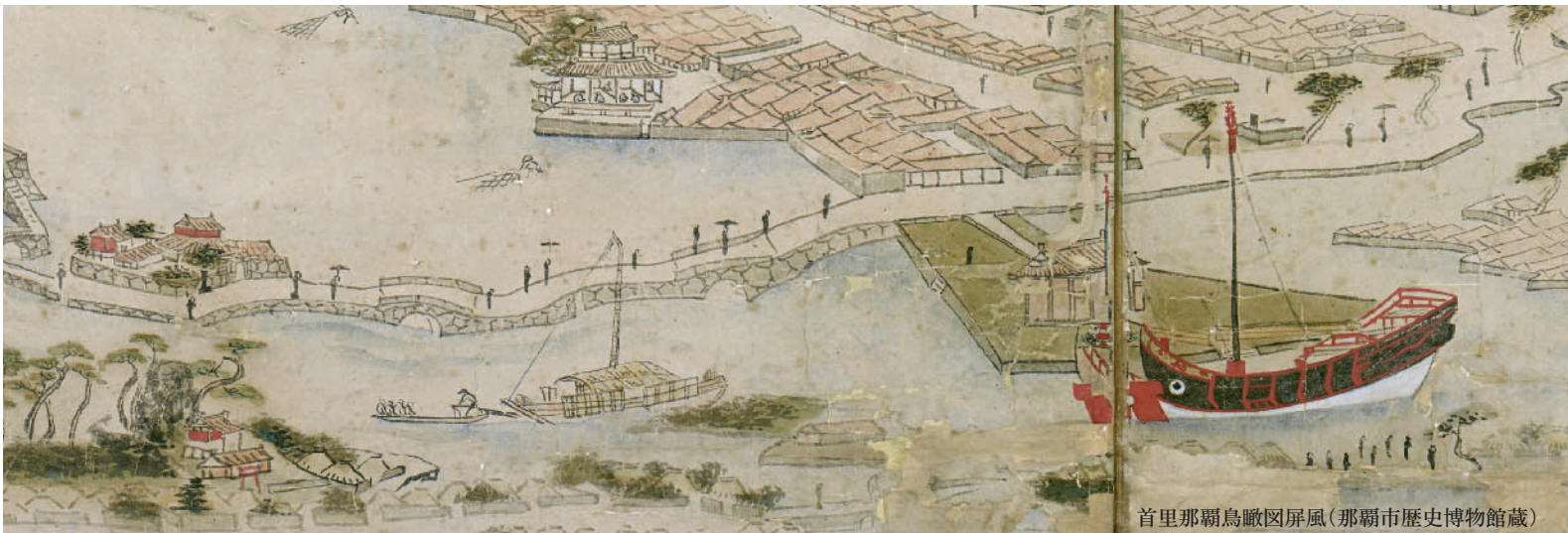


シンポジウム

琉球船と首里・那覇を描いた絵画史料研究

日時:2019年12月7日(土)14:00~17:00

会場:沖縄県立博物館・美術館 3階講堂(入場無料)



首里那覇鳥瞰図屏風(那覇市歴史博物館蔵)

『琉球船と首里・那覇を描いた絵画史料研究』(2019年・思文閣出版)は、有志のメンバーによって、4年以上にわたり那覇市歴史博物館において実施してきた研究会から生まれたものです。

これらの絵画史料は、文字史料だけではたどり着けない、多様な琉球史の世界に踏み込んでいく入り口になることでしょう。

シンポジウムでは本書刊行にかかる研究成果の一部を報告いたします。

〈プログラム〉

第一部 14:00~15:45

報告1 「絵画史料の全容と編集の趣旨・絵画史料研究の論点」

藤田励夫(文化庁文化財第一課主任文化財調査官)

報告2 「絵画史料と琉球船」 荒木和憲(国立歴史民俗博物館研究部准教授)

報告3 「絵画史料と首里城」 鈴木悠(那覇市市民文化部文化財課学芸員)

報告4 「絵画史料と那覇」 外間政明(那覇市歴史博物館主幹)

報告5 「絵画史料の品質・形状」 地主智彦(文化庁文化財第一課文化財調査官)

報告6 「絵画史料の年代比定論」

豊見山和行(琉球大学人文社会学部琉球アジア文化学科教授)

第二部 15:55~17:00

報告へのコメント 田名真之(沖縄県立博物館・美術館館長)

報告者によるクロストーク コーディネーター 高良倉吉(琉球大学名誉教授)

藤田励夫、荒木和憲、鈴木悠、外間政明、地主智彦、豊見山和行